

仙台市泉区保健福祉センター保険年金課
医療助成係長

土屋 智子氏 (高校37期)

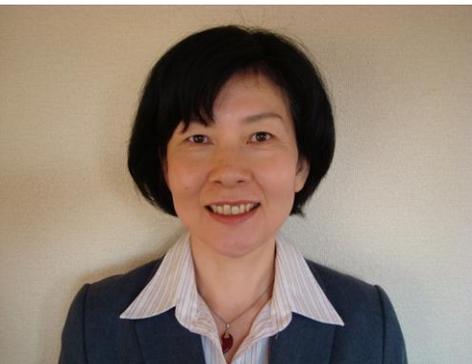
1985年 立川高校卒業(37期)

1990年 筑波大学第2学群人間学類(教育学主専攻)卒業

同年 仙台市役所入庁

国際関係(自治体国際化協会含む)で通算10年、高齢者関係で通算6年のほか、消費生活条例の改正、環境マネジメントシステム運用など様々な業務に従事。2014年4月から現職

また、仙台市役所職員の自主勉強会「Team Sendai」に加入。同勉強会内の業務改善チーム「だ～ういん」を中心に活動中。2013年に東北紫芳会の立ち上げにあたり、微力ながら幹事で参加。



市民を生活者としてとらえたいという気持ちと、政令指定都市になりさらに伸びていきそうな都市、行政と民間が協力しあっている都市というイメージがあり、仙台市役所を就職先として選びました。最初の配属は国際交流課で、行政職(現在の区分は事務)として様々な業務に携わりました。現在は、仙台市にある5つの区役所のうちの1つで、後期高齢者医療制度、各種医療費助成、児童手当などを担当する部署で係長としてマネジメントとサポートをしています。窓口・電話対応、審査、結果の送付、支払事務などを、個人情報取り扱いに配慮しながら、各制度を市民に届ける業務です。市業務では、今も防災や復興に直接携わらない部署でも、震災の影響を感じます。

2011年の東日本大震災に際しては、全国、海外からの支援をいただき、大変感謝しております。仙台市の復興状況は公式ホームページに掲載しておりますので、ぜひご覧ください。震災後は、各部署における被災者支援などの震災対応に加え、規模が大きな災害でしたので、避難所運営、り災証明調査等には応援として他部署の職員も従事していました。他都市からも職員派遣や物資提供などの支援もいただきました。そうした中、都内の自治体に勤務する立高の同期生から、「災害派遣で職員がトラックで行くが、何か必要なものはないか」と連絡をいただきました。避難所での耳栓、アイマスク、沿岸部のがれき撤去の立会者用のヘルメットや安全靴などをお願いしました。

私が立高を志望したのは、入学前に立高祭で責任をもった自由な雰囲気を感じたのがきっかけです。入学後は、学校行事の概念を超えた新入生歓迎会、合唱祭、文化祭、演劇コンクール、体育祭に夢中になりました。部活には入らず、文化祭実行委員会に入りました。「文実は奉仕委員会だ」と先輩方に叩き込まれながら、段取りや立ち回りを学びました。

立高時代、文実の先輩に「自分で限界をつくらないで」と言われました。当時はなかなか一步を踏み出せないこともありましたが、この言葉を私なりに解釈し、「**興味があったら、味見はしてみよう**」という言葉を立て高生の皆さんに贈ります。少しでも興味があったら、かじってみてください。口に合わなければ、そこで方向転換すればいいだけです。そして舌を肥やし、人生の幅を広げてください。公務員として、様々な部署に配置され、ときには自分の視野に入っていなかった分野で戸惑いながらもやりがいを感じられたこともあるからそう思うのかもしれませんが。皆様のご活躍を楽しみにしています。



仙台市泉区役所外観
(手前の建物は職員研修所)



仙台市泉区役所入口